

光受寺通信

NO.188

R 6・9・1 発行
発行元 光受寺



平和の祭典オリンピック。今年は猛暑の夏でもあったことからエアコンをつけての、テレビでの観戦三昧であった。

48種目の競技は、速さ、強さ、技の優劣を競う競技がほとんどであるが、勝敗を決める判定基準が分かりにくくすつきりしない思いが残る競技もあった。そういう意味で私は陸上競技や水泳競技の百分の一、千分の一を競う競技に興奮をしていた。判断基準もはつきりしていて、選手も勝つても負けてもすつきりとした思いが残ったのではないだろうか。

さてそれはさておき、今回のパリオリンピックにおける日本人の活躍は素晴らしいものがあった。メダルの数も世界で第6位、金メダル獲得数でいえば、世界で第3位という見事な結果であった。

国民の期待を背負いながらの競技オリンピック。選手たちには大きなプレッシャーを感じてのことだったろう。映像では見えてこなかった苦悩が試合後の選手の口から語られた時、選手と一緒に涙したことだった。

オリンピックは「参加することに意義ある」と誰かが言ったがオリンピックには「競い勝つ」を目的とすること以外に、全人類がともに友好を深め、「ともに楽しむ」ことを忘れるはならないと思うのである。一位なれたのは、あなたと、あなたと、あなたといたから。私ひとりじゃ意味のないことと、お互いに敬意を払い感謝の思いを持つことを忘れてはならないと思うのである。そういう意味で見ればあのスケートボードの判定などはあまいなところも感じられたが、オリンピックの精神に込めるものがあったように思われたのだ。

勝ち誇ってメダルを噛むことだけはやめてほしいことだった。

渡辺一光さん著 『書きためたものⅢ』のご紹介。

2023年3月18日、渡辺さんは『書きためたものⅢ』を発売された。8歳を迎えられての自伝である。古希で『書きためたもの』。傘寿では『続書きためたもの』と、人生の区切り区切りに、まとめられている。

『書きためたものⅢ』の構成は

「おもいでぶくろ」「こころの旅」「あし・筆まかせ」となっており、B6判の346ページで成っている。

ここにおいては、奥様を亡くされた後、供養のためにとお遍路

の旅に出られた「こころの旅」を通しての思いと、その思いが込められた俳句のいくつかを紹介したいと思う。

こころの旅



前半

四十八ヶ所霊場遍路

冒頭書き出し文より抜粋

かねてよりいつの日か、四国八十八ヶ所霊場に出かけたいと思っていたが、米寿を過ぎた今日、自分探してもあるまいし、かと言って来し方を振り返るほどの何かが有るわけで無し、昨年九月パーキンソン病で長い闘病生活の後、黄泉（よみ）へ旅立った妻の供養一途に遍路の旅へ出た。本来ならば歩き遍路が当たり前と思っていたが、八十二歳の自分には千数百キロ、2か月掛けて歩く自信は露ほどもなく、現地のジャンボタクシーで巡るツアーに参加した。

旅の思いを俳句に込めて

―前半― (抜粋)

(けいちう)

○啓蟄や供養一途の旅支度

○春泥や仏足石にお賽銭

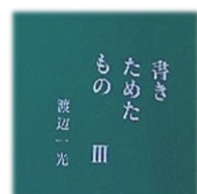
○心教は経本頼り初遍路

○鎮魂の心を鈴に花蜜柑



ツアー遍路では、地元の人たちとのお接待などを通して人々との出会い触れ合いも、歩き遍路のようにはなかったが、振り返るとき『サンチャゴ巡礼100キロ』を歩いた時、休憩所の壁に『四国八十八ヶ所霊場遍路』のポスターがあったのには、こんなところにと驚き、先ず四国へと思っていたのが実現できて、それなりに堪能する前半コースの遍路だった。

後半へ続く。



後半

紙面の関係で任職が独断で選んだ俳句と、結願寺、お礼参りの高野山での思いを掲載させていただきます。

○白蝶と潜る国寶仁王門 (五十一番 石手寺にて)

○お接待を受けた大きな夏蜜柑 ○横峰寺(ここを浄土と卯月花

結願寺、大窪寺は若楓等の樹木に囲まれ、山門には『ご本尊薬師如来』反対側に『四国第八十八番札所大窪寺』と金文字書きの表札が掛けられ、結願所に辿り着いた実感が湧いてきた。

○楠若葉金文字門標結願寺

結願となって、一路お礼参りに高野山へ。

ここに無事、八十八カ所霊場の巡拝を済まして、一区切りがついたが、これが歩いて廻れば一層自分の思いが弘法大師に通じ、お参りの有難さに深みが増すのではないだろうかと思った。八十路を過ぎた体力には残念ながら、またのまた夢と心に収めた。

○百千鳥高野豆腐の真四角



任職感想

渡辺さんは以前にもこの通信に投稿いただいたことがありました。その折には「山登りから」というタイトルでした。今回の著書を拝読させていただき、奥さんとの新婚旅行(S・36)にもすっかり山登りが組み込まれていたことに、山への愛の深さを伺い知ることができました。

そして、その山にもまして愛された奥様との別れをきっかけに決断されたお遍路の旅でした。多くの経験はより深く人生に刻み込まれたことでしょう。ただ、その思いをこの紙面だけでは十分にお伝えしきれないことを残念に思っています。願わくば、その思いは凝縮されたいくつかご紹介した「俳句」から、感じ読み取っていただけたなら幸いに思います。

今月の掲示板

しあわせは
築くものではなく

気づくもの

南篠了瑛

幸せはコツコツと努力して、自分の思い通りの幸せに近づき手に入れるものかもしれませんが、手に入れたらまもなく色あせてしまうことはよくあることです。
色あせることのない心から喜べる幸せは、普段の何気ない日常生活の中にあると思われれるのです。それは阿弥陀様のおはたらきによって知らされてくるのです。

秋季永代経：九月二十二日(日)午後一時半
～二時半

秋の永代経は内勤めとなりますが、参詣は自由です。お参りいただければありがとうございます。

特別永代経は九月二十二日から十一月十日(日)へ

の変更となりました。

一年間の間に「ご家族等」くなられたらしたご縁として、光受寺護持運営を願ひ、永代経料をご寄進いただいた方々との、法要の場となります。
一般参詣はありません。

真宗では

…昨年八月号にも紹介しました真宗一〇派、24輩の寺院巡りもあります。ご縁があればぜひ訪ねてみてください。

お知らせ

お寺サロン

九月はお休みします。

光受寺学習会

九月二十一日(土) 午後2時より

新聞原稿募集中!

…内容は自由です。ご協力よろしく
お願いします。

(10月より再開)